

**資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録**  
**2017年度 第2回**

<b>報告題名 (title) : 農地賃貸借の規定要因-富山県の大規模経営を対象として-</b>	
<b>報告者 (name)</b> 辻 貫志	<b>日時</b> 6月 1日 午後3時~
<b>所属分野 (labo)</b> 国際開発学分野	<b>場所</b> 第5講義室
<b>座長</b> 小林	<b>議事録担当者</b> 仁井田
<p><b>出席者</b> 木谷、井元、小山田、盛田、米澤、冬木、高篠、伊藤 (房)、王 (竜)、Minakshi、小林、Sefat-E-Zerin、石塚、李、Dedy、格根塔娜 (ケゲンナ)、古屋、長尾、熊谷、王 (聡)、唐、楊、仁井田、大山、鄺、Boris</p>	
<p><b>報告要旨 (Abstract)</b></p> <p>今回、農地賃貸借の規定要因-富山県の大規模経営を対象として-というテーマで、研究背景、研究目的、先行研究について報告する。</p> <p>研究背景としては、現在、日本では大規模経営を中心とした担い手への農地集積が進んでいること、米価の低落が進んでいることを紹介する。</p> <p>研究目的は、農地賃貸借に関する制度を整理したうえで、農地の賃貸借の規定要因を探り、米価の低落に対応した大規模経営がどのように可能になるかを探ることである。対象地域は、大規模経営体の育成が進んでいる富山県とする。</p> <p>先行研究では、まず全国レベルでの農地の賃貸借に関する研究を時系列に沿って説明し、その後、富山県の大規模経営を対象とした先行研究を紹介する。そして、2011年以降農地賃借料のデータを用いた研究が少ないこと、事例研究においても農地賃借料に焦点をあてた研究が少ないことを示す。</p> <p>その後、研究方法と今後の研究計画について言及する。</p>	

## 質疑・応答(Q & A)

### Q1 小林

三つのタイプそれぞれに聞き取り調査を行うのか？

### A1

タイプを分類したが、砺波市において実際に存在するのか要確認。適切な事例があれば見る。全部を知るといより、見つかったところで研究する予定。

### Q2 小林

富山県特有の政策はあるか？

### A2

富山県独自という点に関して、歴史的に見て兼業が進んでいたという規定要因により大規模化が進んだかと考えられる。

### Q3 盛田

修正すべき点：実勢小作料ではなく標準小作料制度

質問：2012年以降農地賃借料と稲作剰余の関係を分析することが難しくなる、とは？

### A3

以前はデータとしては全国レベルの都道府県別のデータがすぐに手に入る状況だったが、農地賃借料という情報になった際に各市町村がHPや広報によって個別に発表するような形になり、農地賃借料情報が簡単には手に入らなくなった。

### 盛田

標準小作料は、各地域の農地委員会が、どれくらいの小作料だったら妥当かを示したものであり実勢小作料とは関係ない。

標準小作料をベースに研究した場合、実態とは違うため間違いになる。

実態を確かめたい場合はコメ生産品調査や、水田小作料実態調査、農業系統計調査を行うべき。

競合しているケースが見つかるか、実際に調査が成り立つか、データが得られるかどうか。

インフォーマルプロセスがどのように効いてきているか調べるなどはどうか？

### A3

特になし。

### Q4 米澤

農地賃借の過程を時系列で、圃場管理について追っていったらどうか？

富山の緑ネットで圃場のデータベースを出している。

### A4

特になし。

Q5 小山田

Type 3は集落営農で行なっている。外から人が入って来ることへの抵抗が起こる可能性があるがどう考えているか？

A 5

心情的なものや、信頼関係のようなものに関わることはあると考えている。  
聞き取り調査の時に聞けるかどうか。

Q6 王

研究の方法、調査票を作る際に、変数はどうするつもりか？

A 6

農地に占める田の割合など。

Q7 盛田

市町村ごとにデータセットを揃えて定量分析を行うのか？

A 7

全国レベルでみると難しいため、富山県の規模別にどのくらい稲作収益が上がっているのかに加えて小作料の動向を県レベルでまとめて比較するグラフの作成を予定していた。

Q8 盛田

実勢小作料は規模別に得られるが、それを直接、説明変数や被説明変数にするイメージか？  
規模階層ごとのデータセットをもって分析するのか？

A 8

全体の分析として、計量的に被説明変数というのと、実勢小作料と農業収益に関する分析は別物と捉えている。

Q9 盛田

集落営農をやっているところに個別経営が入って行って、地代はうちの方が高いからうちに貸してくれという動きは見られない。

そういった論点が存在する。

仮説のタイプ1の重なりで激しい戦いが起きることも実際にある。

タイプ1とタイプ3のところで書いたように、大規模経営者同士の住み分けを行なっていることもある。

こういった現実にある姿を調べ、こういったタイプを現実味あるものにしたら面白い

現実に合うタイプ分けをすることが必要。

A9

特になし。